

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス		
所在地	福岡県福岡市西区大字千里字中原49-1 (電話) 092-805-5658		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 20 日	評価結果確定日	平成 28 年 1 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ほんわかハウスの主は入居者お一人お一人であり、入居者の意思及び人格が尊重されお一人お一人のペースや希望に添って自由にありのままに暮らして頂いています。
・地域や家族との結びつきを重視し、地域に開かれたホームです。
・季節ごとに行事を計画し、季節感を味わって頂く事や日々の暮らしに自信と喜びをを持って暮らすことが出来るよう支援しています。
・入居者の能力が最大限に生かされ、その方にあった生活を送っていただくと共に生活の中に役割を持って頂きながら暮らして頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 11 月 19 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれ、緑あふれる市街地の施設です。敷地内にクリニック、同法人の介護老人保健施設があり、道を挟んでグループホーム別館がある。

施設の名前のような「ほんわか」した雰囲気、居心地が良く、利用者は笑顔が絶えない。理念に掲げられているとおり、入居者が主役で一人一人のペースや希望に沿って、入居者の最期のときまで「その人らしさ」を大切にしたい支援を行っている。

今後は地域に向け情報の発信を計画しており、地域で暮らす利用者に常に寄り添える、希望を実現させたい・叶えたいを目標とし、実践している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとして理念を作成し理念に沿ったケアが実践できているか確認している	理念は、月に1回実施しているユニットミーティングで唱和し、職員全員が理解している。理念に掲げられている「その人らしさ」を常々考え支援している。地域住民とは、地域の行事参加だけでなく、地域交流会や事業所の避難訓練に参加してもらい関係を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方を招き入居者、職員ともに交流を図っている。又、地域の祭りやスーパーへの買い物に出かけている。	町内会長、老人会長を通じ、事業所の情報を発信している。「餅つき」は地域住民の参加で行う、ついた餅は近隣にふるまい、お返しに柚子をもらうなどの間柄である。道路向かいの障害者施設に、利用者と一緒にケーキを食べに行ったり、作業で使う新聞紙を持って行ったりもしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し介護や認知症についての情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や行事の際、意見や感想をいただき、ケアの実践にいかしている。	運営推進会議は、地域包括支援センターや市職員、地域住民代表者が参加している。利用者やサービスの実際や評価への取り組みについて報告している。避難訓練のときは、通報の手順等意見をいただき、実施内容の見直しを行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、いきいきセンターふくおか職員に参加していただき助言をいただいている。わからないことがある時は市の担当者に電話をし指示をいただいている。	地域包括支援センターと協力関係を築いている。相談が主だが、連絡や報告を電話や窓口で行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほんわかハウスで定める「身体拘束防止委員会」で報告、話し合いをおこなっている。玄関の施錠は日中おこなっていないが、2階の入居者と仲が悪い方がいらっしゃり頻繁の来訪で喧嘩になるので1階ユニット出入口を施錠している時がある。しかし内部からは入居者でも解錠ができ外へでることはできる。	玄関等は施錠しておらず、転落等の危険がある場所にセンサーをつけている。外出傾向の利用者には、集中できるものや楽しみをもてるものをしていただき、外に出たいときは止めずに一緒に付き添う。内部研修や外部研修を通じ身体拘束について学ぶ機会があり、スピーチロック等お互い注意しあうようにしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会をおこなっている。 入居者に原因不明の内出血等を発見した際、事故報告者に記入、記録に残しリスクマネジメント会議等で報告をおこなっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をおこなっている。	権利擁護に関する勉強会は年に1度必ず行っている。外部研修に参加した場合は、伝達研修や資料の回覧を行っている。利用者家族から相談があったときは、管理者がその都度対応している。	利用者家族へ制度の説明や、制度についてのパンフレット等を設置するなど普段からの情報提供を期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり利用者、ご家族の不安が無くなるまで話を伺った後、契約についての説明をおこない理解をいただいている。 改定の際にも説明会を開くなどしてご理解をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に意見等をいただいたり、家族会の開催等で意見や要望を伺える機会を設けている。 又、外部苦情申し立て機関の重要事項説明書への記載、説明をおこない玄関にパンフレットを置いている。	職員は日常的に利用者の意見や思いを把握しよう心がけている。会話の中で意向をくみ取り、ドライブに行く、寿司を食べる等運営に反映している。 家族会は年に1回開催している。来訪時を含め意見等を聴き、医療や看取りに関する意見は、即時対応し、個別支援を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、職員の考えを直接伝える機会を設け反映できるよう努めている。	職員は各ユニットで固定しているが、交流の機会が多い。日常的に利用者本位でケア内容等意見を交換し変更している。 良いアイデアは全ユニットで取り入れる。 管理者は一人ひとりの職員の様子を把握し、働きやすい環境づくりに努力している。 資格取得は積極的に応援している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすいよう職員の意見を取り入れ現場の環境を整えている。 育児休業中の職員が復帰後の勤務時間を該当職員と話し合い、希望にそっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人物を重視し年齢、性別での判断はしていない。採用後の配置では所属先の状態をみながら適正な部署への配置を検討している。	性別や年齢等を考慮することなく、間口を広げ事業所に合う職員を選考する。昇給や定年年齢の引き上げ等、誰もが安心して働ける職場環境となっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての勉強会をおこなっている。	人権教育の勉強会は年に1回、全職員を対象に行っている。 日常的な会話や、排せつ等日々の業務の取り組みとして、人権を尊重した配慮を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では現状に即した形で年間計画を立て各々に合った研修を実施している。 又、認知症実践者研修等、経験や能力に応じた形で研修参加ができるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム等と情報の共有をとっている。 交流会に参加し勉強会を通じてケアにやくだてている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やホームの見学を受け入れている。 入居後は会話や言動からご本人の気持ちや希望をくみ取ることに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問し不安や要望を聞いている。 入居後にも来訪時等に細かい部分を伺いご家族の思いも受け入れている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入居前の面談で要望を伺いその情報を基 に職員間で意見を出し合い対応に努めて いる。 ほんわかハウスだけではなく、ニーズを 把握し適切なサービスの紹介をおこなっ ている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理等を一緒におこない役割りや 生きがいを持てるよう配慮している。 個々に合わせた係わりを持ちご本人の行 動に寄り添い信頼しあえる関係作りを心 掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご意見、ご意向に沿ったケアをおこなっ ている。又、ご家族の協力が重要である ことを理解いただき共に支え合える関係 を築いている。 来訪時や電話で状態の変化等、こまめに 連絡している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないう、支援に努めている	ご家族、ご友人の来訪。 自宅付近や名所のドライブ。 催し物の案内等をおこなっている。	入居時は、本人や家族との面接や自宅訪 問を行い、生活状況やこれまで大切にし てきた物や人、場所を確認する。 知人との交流は電話や手紙を通じて行 い、家族や知人に訪問してもらい、大切 な時間が過ごせるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの入居者との交流や、お互い が快適な環境で過ごせる場の提供をおこ なっている。 合同でのドライブや行事を催している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	特におこなっていない。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から探り出し記録し職員間で共有し、ご本人を第一に意見を出し合い検討している。	職員は利用者との日々の会話から、思いや意向を把握し、その人らしく生活できるよう支援している。意思疎通が困難な場合は、利用者の表情をくみ取り、気持ちを推し量るよう努めている。入所持に家族から生活歴や趣味を聞き取り確認するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を得てデータベース化し把握、共有している。ご本人にも伺っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録で把握し、アセスメントシートへ記載している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にご本人、ご家族の意向を伺い意見をまとめ、医療等のアドバイスも参考にしながら作成している。	職員を担当制としている。担当職員が他の職員から利用者のケアについて意見を聞き、計画作成担当者と一緒に介護計画を策定している。ご家族様や利用者の希望や意向を計画に反映させている。6か月に1回は見直しを行い、状況が変わった時や退院時にその時点にそった計画を作成し、家族に説明を行なっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し共有し、個別カンファレンス等で方向性を見出しながら実践、評価、見直しをおこなっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設や協力機関と連携しニーズに対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の活用。 季節の景色を楽しむドライブ等。 近隣スーパーの利用。 地域の祭り等への参加。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックの定期受診。急な状態の変化の際も連携を図り必要に応じた他科受診をおこなっている。 又、医療連携日報を用い密に連携している。	利用開始前のかかりつけ医から情報収集を行い、受診経過を把握している。入所時に希望する医療機関を確認している。 事業所のかかりつけ医以外の受診については基本的に家族が行うが、難しい場合は職員が付添い支援している。受診後は家族へ電話し、経過報告を行なっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子があれば併設クリニックの看護師と連絡をとり相談、対応、指示をあおいでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師、看護師と連絡をとり早期に退院できるよう努めている。又、入院時に必要な情報等をまとめたカルテを準備している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学の際にも説明を行い、契約時にも説明、専用の書類に意向等記入していただきカルテに保管している。実際にその時が近づいてきたら、ご家族、医師を交えて協議。ご家族の意向、ほんわかハウスで出来ること出来ないこと、医師の意見を記録。職員間で把握し全体で取り組んでいる。ターミナルケアについて勉強会をおこなっている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針があり、明文化されている。入所時や状況に応じて説明を行い、家族の意向を確認し文章化している。家族の意向や今後の方向性については、生活記録や職員の送りノートに記入し、職員間で情報共有を行なっている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や勉強会を行い、実践できるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を実施し、地域の方々が来られた際には、ご意見、ご感想やアドバイスをいただいている。	3ユニット合同で年に2回避難訓練を行っており、1回は消防署の協力を得ている。運営推進会議で参加を呼びかけ、地域包括支援センター、民生委員、老人会の代表者の参加がある。火災発生時マニュアル・地震発生時マニュアルが整備されている、非常用食料や備品は敷地内にある同法人の隣接施設に一括して備えられている。	建物ごとに、非常災害に際して必要な備品を備えるよう整備が求められる。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付けないよう、又、周囲へ配慮した声かけを心掛けている。	職員は、利用者に小声で話しかけたり、周囲に気付かれないように誘導を行い、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。管理者は気になる発言や関わりについて点検を行い、職員に個別に話を行なっている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に尋ねたり選択肢を設けることで希望を実現できるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、就寝時間等、ご本人の状態とペースに合わせ立場、視線に立ったケアの実践に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容サービスの利用。 更衣時や外出時に好みの服を選んでいただく。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、好物か何が料理や献立を作成している。季節の野菜等も考慮。 お祝い等に普段と違った寿司等の提供。 野菜切りや、もやしの根切り等の調理にも力を発揮していただいている。	利用者は能力に応じて野菜を切ったり、食器を運んだり、準備や片付けを手伝っている。畑で胡瓜やトマト、さつまいも等を栽培し、利用者と職員と一緒に収穫し、献立に取り入れたり、おやつと一緒に作ったり、楽しみが持てるよう取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎の摂取量、水分量を記録している。 好みに応じた食品、飲み物を準備している。 摂取量の少ない時の捕食を準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、臥床、就寝前にケアをおこなっている。 週１回、歯科医の往診があり指示、指導を仰いでいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いパターンの把握に努め、トイレの誘導をおこなっている。	利用者一人ひとりのサインを把握し、トイレ誘導の声かけを行なっている。尿意のない利用者については排泄チェック表を確認し定期的に誘導している。利用者の排泄パターンや尿量を把握し、時間帯に応じて使用するパットの種類を変更している。重度の利用者に対しては、職員２人介助にてトイレでの排泄支援を行なっている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動、マッサージ等で薬だけに頼らないよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	希望の際は申し送り等で提供できるように準備している。 職員の勤務上１３時～１６時が主な入浴時間だが曜日の指定は設けていない。	本人の希望に合わせて入浴を支援している。入浴チェック表を作成し、間隔が空かないよう２、３日に１回は入浴の声かけを行なっている。入浴拒否する利用者に対して、時間を開けて声かけを行ったり、シャワー浴を勧めたりと工夫や配慮を行なっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や様子によりいつでも休めるよう寝具等を整えている。 就寝時間を設けず各入居者が休みたい時に休めるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを用い効果や副作用の把握に努めている。 職員で服薬を管理し嚥下の確認、飲み忘れ誤薬の無いよう確認している。 薬の変更等合った際は様子の変化等記録し看護師に報告をおこなっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ等の気分転換、祝いごと＝ご馳走、など楽しみを演出したり家事等を日課的にできる仕掛けで進んでできる工夫を心掛けている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや喫茶等、声かけにて提供。 又、個別の夕食等、ご家族の協力も仰ぎ実現できるよう支援している。	天候が良い日には、散歩や玄関のベンチで日向ぼっこを行ったり、利用者の希望で近所の喫茶店でお茶をしたり、食事の材料の購入のためスーパーに出かけたり、日常的に外出を支援している。家族と協力してどんたくを見に行ったりと普段は行けないような場所に出かけられるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の預かり管理はおこなっていないが、立替ができる旨を伝え希望に応えられるよう努めている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が書かれた手紙を職員で投函したり月に1回、ご本人に代わりご家族に手紙を出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物、作品や写真を展示し和みや楽しみを感じていただけるよう心がけている。	リビングには利用者が創作した作品や外出時の写真が飾られて、暖かみのある家庭的な雰囲気ですごせるよう配慮されている。ベランダではプランターで植物を育てたり、干柿が吊るされており、季節感を感じられるよう工夫されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置し、ゆっくり寛げる場所を設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での配置に寄せたり使い慣れた家具、道具を配置。写真を飾り安心して過ごせるよう工夫している。	居室には、入居前に自宅で使用していた家具や家電製品、ぬいぐるみや家族との写真、趣味の道具や本が持込まれている。利用者一人一人、個性溢れる居室となっており、使い慣れた者に囲まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机や椅子の高さを考慮したり手摺や場所の表示をし自立した生活ができる手助けになるよう施している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成し理念に沿ったケアが実践できているかを確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方を招き、お花見や避難訓練などを一緒に行い、入居者・職員とも交流を図っている。近くの高校、保育園などに行事等訪問していただいている。近くのスーパーを利用している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用し、介護又は認知症についての情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や行事の際、意見や感想をいただき、ケアの実践にいかしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターより運営推進会議に参加していただき、助言をもらっている。わからない事があるときは、市の担当者より指示を頂いてる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほんわかハウスの定める「身体拘束防止委員会」にて話し合いを行っている。自由にユニット外へも出入りされており、その都度職員が付き添っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行っている。 また入居者に原因不明の内出血等を発見した時など、記録に残し、ミーティング内のリスクマネジメント会議にあげている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護についての勉強会を開催している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。改定等の際にも説明会を開いて、ご理解、了承を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人権についての勉強会をおこなっている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては人物重視としており性別年齢等での判断はしていない。 採用後の配置については、所属先の状態を見ながら適正な部署への配置を検討している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての勉強会をおこなっている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に即した形で年間計画を立て、職員一人一人にあった研修を実施している。また認知症実践者研修や経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム等と情報の共有をとっている。 交流会に参加し勉強会を通じてケアにやくだてている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご家族及びできるだけご本人にもほんわかハウスを見学していただき、ご本人やご家族との話を行い、困っていることや要望などを聞いている。本人に見学いただけない場合は、可能な限り、こちらから訪問し、面談させていただいている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、不安や要望などを聞いている。また来訪時に細かい部分をお聞きし、ご家族の思いも出来るだけ受け入れるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・管理者などと話し、ご本人が今必要とされている事を検討し、必要に応じた支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物(干す・たたむ)などをお願いし、できない部分は一緒に行っている。献立や家事等、スタッフが利用者からアドバイスや意見をいただけるような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや来訪されたときにご本人の状況をお伝えしたり、行事を案内し一緒に参加していただいている。ご本人とご家族とで外出される。ＧＨ内での誕生会に家族が参加されることもある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ドライブ等で以前居住されていた所を通ったりしている。馴染みの場所などがＴＶに出ていると本人に声をかけたり、日常の会話の中に取り入れている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が部屋へ迎えに行ったり、一緒に散歩・外出・会話等を通してお互い支えあえるような機会を作っている。ご自分では上手く関われない人などにはスタッフが一緒になって関われるようにしている。歌やゲームなどスタッフも入り、皆さんで楽しめる機会を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族から手紙などを頂くことはあるが、こちらから連絡をとったりはしていない。入院され再入居の予定がある場合居室の確保をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしさ」を大切にし、自己決定がしやすい状況を考えている。少しでも本人本位に近づけるよう、アセスメントしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や、ご家族が来訪された時等に情報を拾い、生活歴やこれまでの暮らし方を記録に残し、スタッフ全員が把握できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録・申し送り等で個人の情報を把握し、その日の行動・過ごし方を見て、その時にあったケアができるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、現状に伴ったケアの方法を検討し、ご本人の思いやご家族との相談も含めた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・変化を生活記録とし、個人で記録している。毎日のケアチェックも行っている。就業前に生活記録を読み、申し送りなどで最新の状態を把握し、実践できるように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合い、併設の施設や協力機関などと、連携をとり支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・高校生・保育園児などを招いて、行事に参加していただいている。又、地域主催の祭りなどにも案内を頂き、参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ご家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。月2回の定期診察していただいている。また、急性の疾患の時は専門医を紹介してもらい、その都度受診している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携日報での情報のやり取りや巡回時に相談している。また、体調の変化や心身の変化に気をつけ、必要に応じて報告・相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、時々面会に行き、ご本人の表情や様子を知り、病院のスタッフと情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期における意向を確認し、状態の変化ごとに再確認をしている。また、状態が変化したときなど節目ごとにご家族・Ns・Dr、職員と方針を確認、共有している。またはご家族・医師とで面談を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての勉強会を行っている。また、消防署での救命救急の講習や内部で勉強会を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回大規模訓練を行い、その内1回は消防署に立ち会ってもらっている。地域運営推進会議も兼ねて、地域の方にも参加いただき、助言を頂いている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の「その人らしさ」を理解し、自尊心を傷つけないような言葉かけ、言葉遣いに注意しながらケアを行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解できる言葉や単語を用いて、働きかけている。選択肢を設けるなどして、自己決定できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意の視点に立ち、個人のペースに合った生活・ケアを心掛けている。その日の状況に応じて、出来る限りご本人の希望に合わせた支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や身だしなみ用品はすぐ使いやすい場所に置いている。また起床時・外出されるときはスタッフ側から声掛けを行い、ご本人に選択していただけるよう声掛けしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものなど嗜好を把握し、献立を組んでいる。また、季節の旬の食材や、行事に適した献立なども考え、盛り付けなども考慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が個人で把握できるよう記録している。摂取量が不足しがちな方は、栄養補助飲料を提供している。また、補食として、好まれる食品や飲料を常備している。個人の咀嚼・嚥下機能の状態に合わせた形態に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの他に、歯科医往診にて指導を受けている。1人1人に合った声掛け・支援を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄記録を作り、パターンを予測してケアを行っている。その方に合った、パットを使用し、できるだけ自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけに頼らず、水分補給を促したり、食物繊維を多く含んだ食材を使用したり、散歩などの声掛けにて適度な運動へと繋げている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望を尊重した声掛けを行っている。要介助者がほとんどで、スタッフ層が厚い時間帯に入っていたい。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	排泄と同様、個人での睡眠の記録をとり、出勤スタッフがリズムや状況を把握できるようにして、その時の状況に応じて対応できるようにしている。夜にスムーズに安眠できるよう、日中に家事や散歩・レクリエーションを行っている。又、必要な方には、日中休憩を取っていただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬を一覧表にまとめ、目的・用法・用量などを明記している。他、薬の変更・追加等を医療連携日報・生活記録にて確認・把握している。カルテ表紙裏に入居者情報として最新の服薬状況を添付し、緊急時などのサマリーとして活用している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、家事・散歩など、生活歴を活かし、活動できる場面を、担当職員を中心に計画し、提供している。その時に興味を示されるものなどをスタッフ間で共有し支援につなげている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、その時の状況に応じて、個人で出掛けたり、少人数で出掛けたり支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の預かりは行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については要望があればかけていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、各入居者様が過ごしやすい家具の配置にしている。カーテン・障子などで光を調節している。季節に応じて正月飾り・雛壇などを飾っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は入居者の関係を考慮して席を決めているが、それ以外は自由に移動して頂いている。気の合う利用者同士で過ごせる机やソファの配置や、ホールにもソファ・玄関先にベンチなどを配置し、状況に応じて居室へお誘いしたり、ひとりになれる空間作りを心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の設置や道具・写真を持参して頂いている。バックグラウンドを活用し、馴染みのものを置いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さ・家具の配置など、ご本人の状態・動線に合わせて安全に生活できるよう設置している。また、表示方法説明方法を一人ひとりに合わせて工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成し理念に沿ったケアが実践できているかを確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方を招き、お花見や避難訓練などを一緒に行い入居者、職員とも交流を図っている。近くの高校、保育園などの行事にお招き頂き訪問させていただいてる。近くのスーパーを利用している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、介護、認知症についての情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や行事予定などの意見交換を行い、頂いた意見などをケアの参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加して頂き、助言をしていただき、分からないことは市の担当者より指示を頂いてる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を資料を回覧し行ったり、身体拘束防止委員会にて話し合い、報告など行っている。玄関は日中は開錠し自由に出入りでき、開錠も内側からはご自分でできるような鍵になっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行っている。 入居者の原因不明の内出血など発見した場合は事故報告書など記録に残し、リスクマネジメント会議などで報告など行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護についての資料の回覧、勉強会を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に契約についての説明を行い理解をし納得いただいて契約を行っている。改定等の際は説明会を開きご理解、了承を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺う機会を設けている。日常の来訪時にも職員から一声かけるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人権についての勉強会をおこなっている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関しては現場からの意見あった場合は、状況に応じ環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については人物重視としており性別、年齢によって判断はしていない。配属先の状態をみながら適切な部署への配置を検討している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての勉強会をおこなっている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力や得意不得意を把握し、それぞれの得意な事を生かせるような係りを担当してもらったり、経験能力に応じた形で研修へ参加できるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム等と情報の共有をとっている。 交流会に参加し勉強会を通じてケアにやくだてている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っている事、不安に思っていることなどを聴いて介護計画を作成しケアを行っている。生活記録、申し送り、カンファレンスなどで職員全員で情報共有を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でも本人の情報と共にご家族の要望や不安な点などを伺い、介護計画に反映しそれに沿ったケアを行っている。面会時に現在の状態など伝え、ご家族の意見を頂いたりコミュニケーションを取るように心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入居前に面談を行い要望などを伺い、その情 報を基に職員間で意見を出し合い対応に努め ている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	若い職員など料理の味付けなど入居者に教え ていただくなど、出来る能力を引き出し共に 支えあって過ごしている。社会常識やいろい ろな知恵などを教わる事で職員の成長が見ら れることがある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	来訪時に近況報告などを伝える時間を設けわ からないことなどはご家族に尋ねケアの参考 にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が続いている場合は手紙 のやり取りの支援や面会時対応をしている。 地域の行事への参加などしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士活動していただくように 支援したり全員で一緒に活動できるように働 きかけ仲良くなる機会を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退去が決まった後でもその後についての連絡 を取り合っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出掛けたい、これがしたいなど要望を言われた時はなるべく支援できるようにしている。入居者との会話や行動などから意向等をくみ取れるように努めている。。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にどのような暮らしをされていたかなど情報を頂いて、把握できるようにしている。ご本人との会話などでお尋ねして情報を得たりしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで心身の状態を把握し、カンファレンスを行ったりしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をもとにカンファレンスをし、問題点や課題などを話し合い介護計画を作成している。意思の確認が困難な方は生活の中から意向をくみ取っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に残し、ケアプランチェックを毎日つけて毎月見直し評価を行っている。変化や気づいた事はカンファレンス記録に記入しカンファレンスを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設や協力機関との連携をとり支援に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山笠見物や地域主催の祭りなどに参加している。町内会や高校生、保育園児などを招いて行事に参加して頂いてる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診の支援、必要に応じ他科受診はの支援を行っている。担当医とご家族の話し合える機会を設けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携日報での情報のやり取りをし、体調の変化がある時は連絡をとり指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より担当医、看護師などと情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化終末期においての指針について説明を行い、状態の変化に応じて医療を交えた今後の対応について話し合いを行い家族の意向を確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受けている。急変時の対応については勉強会を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は大規模訓練を行い1回は消防署立会いで行っている。運営推進会議を兼ねて地域の方に参加して頂き、助言を頂いている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような言葉かけや行動に注意しケアを行っている。一人ひとり捉えかたが違うのでそれぞれに合った声かけや接し方を気をつけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や行動から思いや希望などを捉え実施している。その方のわかりやすい言葉かけやその方に合わせた選択肢を増やしたり減らしたりし自己決定できるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族からも以前の生活習慣を聞いたり、ご本人に聞いたりして何をしたいか、何に興味があるかなどご本人に希望にそって対応している。希望に添えない場合は他の提案をしたり話し合いをしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服や好きな色などをご家族やご本人に聞いたりして、洋服を準備し選んで着替えて頂くようにしている。化粧などされる方は化粧品を洗面台に置いて化粧をしやすいようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けの出来る方には味付けをして頂いたり季節の物を取り入れ季節を感じて頂いてる。外食などを取り入れハウスとは違う雰囲気食事をする機会を設けている。食が進むようにその方の形態、量、盛り付け方などを考え提供している。食事の準備や後片付けなど一緒にしていただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を毎日チェックするようにはしており、不足している方は補食や補水を行うなど努めている。管理栄養士がいるわけではないのでハウスでの手作りについては栄養のバランスが摂れているは言えないが栄養バランスを考えては調理している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回歯科医の往診を受け指示、指導を仰いでいる。食後や臥床、就寝前など声かけを行い各自居室で歯磨きが出来るよう支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄状況や排泄パターンを把握している。その方に合った声かけ誘導、またその方の尿量などに合ったパット選ぶなど必要に応じて検討したりしている。トイレを迷われる方にはわかりやすい目印をつけるなど工夫している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけ排泄パターンを把握し、便秘ぎみの方には毎日ヨーグルトやオリゴ糖を使用している。便秘の場合はDrやNsの指示のもと緩下剤を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴表にていつ入浴したかがわかるようにしている。その方が入りたいと思った時に入って頂くの一番良いが安全面を考えると昼間の入浴しか出来ないのが現状である。どうしても昼に入れない方は夕食後など落ち着いた時に入浴していただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心できるようにその方が以前使用されていたタオルケットや毛布を使用して頂くなど工夫はしている。それぞれの生活リズムに合わせた就寝、起床時間に合わせて支援している。意思決定が困難な方や体調が悪い方は様子を観察し休息を促したり介助にてベッドで休んでいただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳とは別にわかりやすく薬の種類・効果など記入し職員が回覧しサインして情報を共有している。薬の変化があった際は記録と薬一覧表に記入し、御家族に連絡し報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やアセスメントで捉えた情報を元にその方の残存能力が生かせるようにその方にあった活動を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブに出かけたり、2ヶ月に1度のペースで外食に行ったり季節によって花見なども行っている。家族との外出も希望があれば可能のように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の所持は本人の希望のある方は御家族の理解、協力を得て所持していただいている。買い物では適切に支払いができるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと要望がある場合は公衆電話に案内しかけていただいている。手紙も要望があると葉書や便箋を準備したり文章と一緒に考えたりし手紙のやり取りができるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング、玄関などに季節の花を飾るなどし季節を感じれるようにしたり、暦を設置したりしている。食堂が天気によっては暗く昼か夜かわれることがあるので照明の工夫が必要。トイレなどにパットなどを置いている場所は布などをして見えないような対応をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士同じテーブルに席を設けているが状況などにより席替えをすることもある。一人になりたい時は少し離れた席を設けておりそこで過ごして頂けるようにしている。 リビングにはテレビを置き好きな時に見れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使われていた使い慣れたタンスや鏡台など置いている。本人が希望されれば家具の配置を変えたり対応している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線にあたる廊下やトイレなどに手すりや手をつけれる棚を設置している。 居室内もタンス等を等伝って居室を歩けるよう導線を確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない